



## 平成28年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成28年2月10日

上場会社名 太洋物産株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9941 URL <http://www.taiyo-bussan.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 滋  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務部ジェネラル マネージャー (氏名) 宮内 敏雄 TEL 03-5333-8080  
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月10日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年9月期第1四半期の業績（平成27年10月1日～平成27年12月31日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年9月期第1四半期	5,457	△8.8	△75	—	△98	—	△99	—
27年9月期第1四半期	5,984	12.7	84	20.3	87	65.2	80	73.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年9月期第1四半期	△8.48	—
27年9月期第1四半期	6.90	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年9月期第1四半期	12,423	224	1.8	19.14
27年9月期	12,206	263	2.1	22.44

(参考) 自己資本 28年9月期第1四半期 224百万円 27年9月期 263百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年9月期	—	—	—	—	—
28年9月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成28年9月期の業績予想（平成27年10月1日～平成28年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,000	22.3	220	72.9	130	75.8	110	56.3	9.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期（累計）の業績予想の記載を省略しております。詳細は、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無  
 ② ①以外の会計方針の変更： 無  
 ③ 会計上の見積りの変更： 無  
 ④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

28年9月期1Q	11,734,197 株	27年9月期	11,734,197 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

28年9月期1Q	6,272 株	27年9月期	6,272 株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

28年9月期1Q	11,727,925 株	27年9月期1Q	11,728,348 株
----------	--------------	----------	--------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国の経済は、企業の業況等は好調を持続していることから穏やかな景気回復は継続していると考えられておりますが、新興国経済の減速など海外での先行き不透明感、原油価格の下落等により物価上昇を抑制する動向も強まり、景気回復の実感が乏しい中での当第1四半期累計期間末を迎えました。

このような環境の下、当社の主要商材である鶏肉につきましては、国内需要は堅調に推移しているものの輸入量が13年ぶりに年間52万トンを超える見通しの中、価格相場が低迷し、利益を確保することが難しい状況となりました。牛肉につきましても、食卓・外食向けは売り上げが伸びず、取扱数量・売上高とも減少しました。中国向け車輛部品・エンジンの輸出は、日本製としての信頼を重視され、根強い需要があることから堅調に推移しました。加工食品につきましては、タイ産を中心に外食産業向けに取扱数量・売上高とも堅調に推移しており、化学品等の輸出は既存顧客を中心とした営業を展開しながらアイテム数を増やすことで、取扱数量・売上高とも順調に確保することができました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は54億57百万円(前年同四半期累計期間比 8.8%減)となり、営業損失は75百万円(前年同四半期累計期間は 営業利益84百万円)となりました。この大きな要因としては、主力の鶏肉において、輸入品在庫が15カ月連続で前年同月を上回る高水準にあり、市場価格が低下する中での営業を強いられたこと等によります。これにより、経常損失98百万円(前年同四半期累計期間は 経常利益87百万円)、四半期純損失99百万円(前年同四半期累計期間は 四半期純利益80百万円)となりました。

#### (食料部)

鶏肉につきましては、国内需要は堅調に推移したことから取扱数量・売上高とも確保はできたものの、需要を上回る輸入量があったことや暖冬で鍋需要が激減したこと等で価格が下落しました。牛肉につきましては、特定部位の商品で価格が高めに推移いたしました。期末にかけて暖冬により食卓・外食向け需要が伸び悩み、取扱数量・売上高とも減少いたしました。ハム・ソーセージの原材料となる畜肉調製品につきましても、小売店での年末商戦の不振から需要が伸びず取扱数量・売上高とも減少いたしました。

この結果、当第1四半期累計期間での売上高は、34億76百万円(前年同四半期累計期間比 18.1%減)となりました。

#### (営業開拓部)

中国向け車輛部品・エンジンにつきましては、日本製としての信頼は厚く、需要は根強くあったことから取扱数量・売上高とも堅調に推移しました。農産品につきましては、中国産大豆は相場低迷から取扱数量・売上高とも低迷したものの、玄蕎麦は期末にかけ国産品の品薄感から輸入物への需要が生じ、取扱数量・売上高とも増加しました。化学品につきましては、既存顧客との協同に支えられたこともあり、取扱数量・売上高とも順調に推移しました。総合食品チームが取り扱う畜肉等の加工食品全般につきましては、タイ産の加熱加工食品を中心に外食向けの商品が堅調に推移しましたが、中国産につきましては、消費者のイメージが定まらない状況での販売となったため、取扱数量・売上高とも減少いたしました。

なお、当部で今期より取り扱いを開始した牛肉・牛肉内臓類等につきましては、消費者の需要動向を見つづの販売となりましたが、取扱数量・売上高とも実績を積み上げております。

この結果、当第1四半期累計期間での売上高は、18億60百万円(前年同四半期累計期間比 11.5%増)となりました。

#### (生活産業部)

スーパー・量販店向け豚肉及び加工食品につきましては、当第1四半期累計期間を通じて僚品である牛肉の価格が比較的高く推移したことから豚肉への需要が高まり、さらにリニューアルオープン記念やフェア等で取扱数量・売上高とも増加いたしました。鉄鋼製品につきましては、需要が極端に落ちたため、取扱数量・売上高とも減少しました。

この結果、当第1四半期累計期間での売上高は、1億19百万円(前年同四半期累計期間比 66.1%増)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期累計期間末の資産につきましては、売掛債権及び未収入金等の減少、現金及び預金等の増加に伴い、前事業年度末に比べ217百万円増加し、124億23百万円となりました。

負債につきましては、仕入債務等の増加等により前事業年度末に比べ2億56百万円増加し、121億99百万円となりました。

純資産につきましては、当四半期純損失の計上及び為替予約の時価評価損の減少等により前事業年度末に比べ38百万円減少し2億24百万円となりました。自己資本比率は1.8%となり、前事業年度末に比べ0.3ポイント減少しております。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成27年11月13日公表の「平成27年9月期 決算短信[日本基準](非連結)」で公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計方針の変更  
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年9月30日)	当第1四半期会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,663,185	2,959,119
受取手形及び売掛金	4,241,334	4,170,504
商品及び製品	4,299,791	4,438,821
その他	242,782	96,830
流動資産合計	11,447,093	11,665,276
固定資産		
有形固定資産	324,403	319,950
無形固定資産	2,859	2,859
投資その他の資産		
その他	478,111	481,933
貸倒引当金	△46,461	△46,461
投資その他の資産合計	431,649	435,472
固定資産合計	758,912	758,281
資産合計	12,206,006	12,423,558
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,544,123	2,065,609
短期借入金	9,166,469	9,160,138
未払費用	713,366	557,096
その他	298,322	189,253
流動負債合計	11,722,282	11,972,097
固定負債		
退職給付引当金	157,195	161,086
その他	63,289	65,830
固定負債合計	220,485	226,917
負債合計	11,942,767	12,199,014
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,269,897	1,269,897
資本剰余金	1,231,838	1,231,838
利益剰余金	△2,176,364	△2,275,851
自己株式	△852	△852
株主資本合計	324,518	225,032
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15,579	21,241
繰延ヘッジ損益	△76,858	△21,729
評価・換算差額等合計	△61,278	△488
純資産合計	263,239	224,543
負債純資産合計	12,206,006	12,423,558

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成26年10月1日 至平成26年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年10月1日 至平成27年12月31日)
売上高	5,984,806	5,457,023
売上原価	5,740,207	5,354,702
売上総利益	244,598	102,320
販売費及び一般管理費	159,910	178,134
営業利益又は営業損失(△)	84,688	△75,813
営業外収益		
受取利息	97	—
受取配当金	700	700
為替差益	2,480	314
受取賃貸料	2,850	2,835
還付消費税等	26,697	680
その他	279	647
営業外収益合計	33,105	5,178
営業外費用		
支払利息	27,038	25,403
その他	2,942	2,904
営業外費用合計	29,980	28,307
経常利益又は経常損失(△)	87,812	△98,942
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	87,812	△98,942
法人税、住民税及び事業税	7,004	719
法人税等調整額	△131	△175
法人税等合計	6,873	543
四半期純利益又は四半期純損失(△)	80,939	△99,486

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自平成26年10月1日 至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食料部	営業開拓部	生活産業部	調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	4,245,255	1,667,483	72,067	—	5,984,806
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,245,255	1,667,483	72,067	—	5,984,806
セグメント利益又は損失(△)	107,870	44,750	△11,119	△56,813	84,688

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△56,813千円は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間(自平成27年10月1日 至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食料部	営業開拓部	生活産業部	調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	3,476,727	1,860,543	119,752	—	5,457,023
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,476,727	1,860,543	119,752	—	5,457,023
セグメント利益又は損失(△)	△21,981	29,559	△23,369	△60,022	△75,813

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△60,022千円は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。